

KOTELO

しんぶん



特別対談

この場所から、
自分たちが

出来ることを
考える。

連載

アナタの、働き方、のぞき見。
KOTELOってどんなところ？
KOTELO本日より

河上金物株式会社
代表取締役社長

河上 森

株式会社内山精工
代表取締役社長

内山 彰博

株式会社トミノ
代表取締役社長
木村 嘉秀

今回は
百年示道塾とやまの仲間である
お三方をお招きし、
KOTELOと百年示道塾とやまの関係性や
将来のビジョンについて
話してみました。

Facilitator

ファシリテーター

福崎 秀樹

百年示道塾とやま代表であり、
KOTELOオーナー
株式会社フクール代表取締役社長



はじめに

百年示道塾とやまとは、「百年後の子ども達に輝く日本を遺す」という理念のもと、人が輝く企業づくりを目指す経営者が集まった団体です。企業間同士が互いに連携し、社員や子供達の人間的成長の機会を数多く作っています。

象徴的なものとして、複数の企業が連携して『若手塾』という新入社員のための研修を行なっています。また、その研修の集大成として、子供達とその新入社員たちが互いに協力しながら立山連峰を縦走するという『令和の武者修行』という冒険を企画、運営しています。



令和の武者修行
ダイジェストムービー



活動が変わったこと

福崎 「百年示道塾とやま」をやり始めてから変わったことありますか？

内山 働くっていう感覚が無くなったかもしれないね。

福崎 それは普段の仕事も？

内山 そうそう。仕事しているっていう感じではないんだよね。

河上 ずっと遊んでいるし、ずっと働いているっていう。

内山 うん。かつこよく言うと、人生そのものというか。



河上 たしかに働くという概念が、示道塾や若手塾に出会ってから、変わったのは間違い無いですね。

内山 従業員のためとか、他の人のために、というのが働くことの中の大きな要素だから。

河上 それが巡り巡って自分のためになるという感じですね。

木村 僕は、福崎さんがKOTELOを始める時に、それが「さなぎ」という意味だと教えてもらい、この場所を「Re...ハタラク」という場所にしたいと聞いてすごく良いなと思って。今みたいな要素がすっかり詰まった名前だなと。僕たち百年示道塾とやまがやっている武者修行の子どもたちを見ていても、すごく勇気をもらおうし、あれもやっぱり「働く」です。その関係性が、KOTELOで出来ていることにも関連性を感じます。

福崎 ハタラクということは、給料をもらっただけではなくて、誰かを元気にするとか、「傍(はた)を楽にする」と書いて「はたらく」と言うように、誰かを勇気づけるとか、助けるとか、そんな意味がいっぱい込められていると思うんですよ。そういう場にしたいかったというのが一番ですね。

学ぶ場、そして巣立っていく場所

福崎 百年示導塾とやま側から見たKOTELLOってどんな場所ですか？

内山 いや、本当に良い拠点。ベストポジションだね(笑)。ちよっと下界から離れて、自然もあって、普段の日常から離れてじっくり考えられるというか。

河上 先日の1周年イベントなど、子どもたちがキャッキヤと嬉しそうに遊んでいる姿を見て、この学校が喜んでいいるなと思って。その時間を取り戻してくれているなと感じます。

福崎 武者修行もここでやり始めてから少し変わったと思いますよね。

木村 若手のメンバーは、ここが武者修行の拠点じゃないですか。完全に思いが入っている地になっているというか。

福崎 そうだね。彼らにとっても帰る場所ができたという感じがするね。みんな別々の会社で仕事をしているけれど、彼らにとって帰る場所がここなんだよね。

内山 いいね、思い出がくれる場所っていうのも一つのキーワードだね。

木村 学校という場所だけあって、学ぶ場でもあり、巣立っていく場所でもあるじゃないですか。みんなで集まって、一緒に成長して、それこそ「さなぎ(KOTELLO)」という言葉がぴったりですよ。

福崎 いいこと言うねー。
木村 年に一回だけでですけど(笑)

一同笑

木村 KOTELLOって「Re・ハタラク」という言葉がテーマですけど、働くことによつてさなぎがどう変化するのかというのが見られる場所ですよ。 「主体変容」とかが生まれる、そういう場所だよね。

福崎 立山ってそういう場所なんですよ。立山に入ること、死んで生まれ変わるという立山信仰がうまれた場所。まさに主体変容。そして、主体変容を象徴するのが蛹だ。なつてずつと思つていたんです。だから、この場所の名前を考えた時に、蛹って他の国の言葉で何なんだろうと調べたら、フィンランド語のKOTELLOに出会ったんです。響きも良いし、文字の形も良いし、一瞬でこれだ！って思いましたね。

内山 KOTELLOって言葉自体何だろう？って思つてたけど、意味を知つて「おー！」と思つて。

これからのKOTELLO

福崎 今後のKOTELLOと百年示導塾とやまでやってみようかありますか？

内山 これまで、ここから巣立って行った子たちを集めてワーツとやりたいよね。祭りみたいな(笑)。

福崎 祭りだ！祭りやりたいね。1回目に参加した子どもたちももう高校2年生だからね。もうそろそろ河上金物に入社してもおかしくないよね(笑)？

木村 武者修行の経験者が10年経って、若手だった人たちがまた若い子を育てていくみたいな感じになっていくといいですね。

河上 今の日本って全部がぶつ切りになっているんですよ。小学校、中学校、高校、大学、社会人と。それが別々ではなくて、本来は全部がつながっているんですよ。ズーっと同じ繋がりの中で始まっていくのが、理想ですよ。うちは実家が家業をやっていたので、働くというのが身近だったけれど、今はそういう環境は少数派だと思うので、今後もっと働くというものが子どもたちにとつて近い存在になるように、啓蒙していく場づくりみたいなのは思っています。武者修行を体験した子たちを会社に招いて、働くを感じてもらおう。14歳の挑戦の、若侍バリージョンみたいな。

福崎 そういいね。やってみたいね。



河上 実際に一緒に遊んだり、関わったお兄ちゃんたちが働いている姿を子どもたちに見せるのはいいですよ。夏休みの社会科見学みたいな。

福崎 いいねー。絶対やろう。世代のつながりとか、子どもたちに本当に働くっていうのは何か感じてもらえれば良いよね。

木村 すぐリアルに、中学生とか高校生とか、一緒に関わったお兄ちゃんたちがいきいきと働く姿を見ると、仕事に対してワクワク感を覚えると思うんですよ。みんなあまりにも就活が大変だとか、面倒臭いとかそつちの方にイメージが先行しちゃってそれは良くないな。

福崎 大人ってかっこいいなと思わせてあげたい。武者修行という物語を続けていくということがすごく大事だなと思うよね。

河上 人と人って絡み合つてそれぞれ成長していくわけじゃないですか。それがまた交わる場を作つてあげるといふのは必要ですね。

内山 そうだね。何かをしようというよりも、そういう場を設けて、そこで人と人が交わり合うのが大事かもしれないね。僕たちはこうして横のつながりができて、子どもたちは縦のつながりができる。そうやって立場関係なくつながっていくのが良いなと思うよね。

福崎 そういう場になりつつあることが嬉しんですよ。今日はみなさんの貴重なお話、本当に勉強になりました。ありがとうございました！

KOTELLOトピック
イベント情報のご案内

2023 SCHEDULE

4月 KOTELLOの研修
KOTELLOならではの4つの研修プランが新登場。社員研修や人材育成に役立ちます。
・体験型・登山・講師派遣・講演/学習会



お花見
もともと小学校だったKOTELLOには大きな桜の木があります。かつては学生さんたちがこの木の下で「青空ランチ」をしていたんだとか。街中より少し遅めの見ごろを迎えるKOTELLOのお花見、是非お越しください。



4/7 fri 10:00-17:30 場所:KOTELLO体育館

KOTELLO春の特別授業
～白駒妃登美さんによる歴史の時間～
多くの著書を出されている博多の歴史、白駒妃登美さんをお呼びして、日本の歴史を紐解きながら、日本人の生き方や心を学びたいと思います。KOTELLOにちなんで、「Re:ハタラク」をテーマにしたお話や、マナー講習を実践できるお時間をご用意しております。



5/21 sun

古本市
富山の学生が主催する古本市。本の販売のほか、コーヒーやお菓子の販売やワークショップ、読み聞かせなども企画中。



ARCHIVES

2月

サウナとカレー。
雪の中、サウナとカレーを楽しむイベントを開催しました。



11月

KOTELLOの朝ヨガ
オープン時間前のKOTELLOを解放して、お仕事のヨガ教室を開催。



1月

書道教室
KOTELLOで書き初め！デザイン書道とカレンダーを作りました。



10月

焼き芋の会
会長が育てたおいしいサツマイモでつくる焼き芋の会。



3月

先輩力向上セミナー
「自己鍛錬力」を脳科学から紐解く、オンラインセミナーを開催。



12月

KOTELLOの小さなクリスマス会
ロコモーションさんのカレーやsankawaさんのクッキーの販売など実施。



9月

KOTELLOの文化祭
KOTELLOオープン1周年を記念してイベントを開催。



イベントの詳細情報はホームページにて随時更新しています
www.sanagi.net





専務取締役
山田 展大 さん

企画デザイン室チーフ
石田 真子 さん

アナタの、働き方、のぞき見。

このコーナーでは、KOTELLO スタッフが気になる企業様を訪ねて、社長やスタッフさんの仕事への想いや働き方についてインタビューします。

今回は、グラフィックアーツ印刷を得意とする富山市の印刷会社「YPP 株式会社山田写真製版所」に伺いました。



Q1 どんな仕事をしていますか？

山田…3年前から富山本社で新規事業や若手社員とSDGs推進に向けた新しい取り組みにチャレンジしています。例えば、社員のアイデアで余ったカレンダーと印刷紙でスケジュール帳を作ったり、富山市のSDGsウィークイベントで、工場で破棄される紙屑を再利用した紙粘土づくりのワークショップを開催したり。新規事業といっても、ゼロから一を生み出すのではなく、創業100年で自社が培ってきた技術や財産にアイデアをプラスして新しいモノを生み出したり、社員がこれまでなかなか実現できなかった企画をカタチにしています。

石田…私は、アートディレクターとして、名刺からカタログ、WEB関連などの企画デザインをしています。ペーパーレス化の時代に印刷物は疎遠されがちですが、「芸術的文化的価値の高い作品を世に出していこう」という想いで、みなさんに感動と潤いを与えられる価値のある本やポスターを制作しています。



Q2 印象的なエピソードはありますか？

石田…最近では、KOTELLOさんのコンセプトブックやロゴ制作をお手伝いしたことです。オープン時期にちょうど弊社の100周年記念もあり、ポスター展も開催させていただきました。

山田…私たちの仕事は企業向けがほとんどで、クリエイティブな素晴らしい作品が多くても一般の人にお見せする機会はほとんどありません。しかし、書店でも置いていないような写真集や美術カタログなどを、地域のみなさんが食いつくように見てくださったのは嬉しかったですね。

企業紹介

YPP 株式会社山田写真製版所

1921年に創業。富山県に本社を構える100年企業。時代とともに芸術という文化やスタイルを変えていく中で、「色の再現性の技術」と「色の知識」を強みとし、美術印刷をはじめ、様々な印刷物を全国的に展開する。

石田…私たちのデザインを身近に感じてくれたこと、地域の方と交流ができたことが何より楽しかったです。そして、社員にとっても、改めて自分たちの会社がどんなことをしているかを知る良い機会にもなりました。

Q3 今後挑戦していきたいことは？

山田…ポスター展やワークショップで地域の人と接したことで、考え方や行動ひとつで私たちが地域の人々に貢献できることを実感しました。今後も、富山や社会のためになることを発信していきたいです。

石田…私の目標は、地域の人が交流できる自社ギャラリーまたはYPPカフェをつくることです。高級美術印刷はハードルが高いと思われがちなので、気兼ねなく寛げて、ついでに本やポスターに触れられる場があるといいなと。それがきっかけで色んな需要が生まれ、地域の方の感性が育っていったら素敵ですよ。

Q4 おふたりにとって「ハタラク」とは？

石田…「健康」です。身体的な健康のためでもあります。それなら、好きなことをやった方が心も豊かになると思っています。

山田…「自分と周りを幸せにすること」です。富山に来て、「仕事は何をするかより、誰とどう関わるかが大事」ということを、社員から学ばせてもらいました。自分も社員も、お客様も地域の人もみんな幸せになれる仕事をしていきたいです。

MIPOX株式会社 代表取締役社長

渡邊 淳さん



Q1 KOTELLO利用のきっかけは?

前から福岡さんのSNSなどで、こういった取り組みをするというのを見ていて、僕はできないけど、地域をベースに地方再生やっているのは、すごいなあって思っていました。僕は東京にいて地方創生とか分からないんだけど、使うとか行くとか、何か応援できないか?って思っています。

Q2 今後KOTELLOとやってみたいこと

毎月役員のメンバーで別の土地に行っていて、新幹線で意外と近いし、行こうって決めたくなんです。僕の中で、常にディスティネーションとしてここ(KOTELLO)はあったんです。だから良いタイミングだなと。先日、北軽井沢で同様の企画をやったんですが、その企画がすごくよかったです。今回は行くだけじゃなくて福岡さんに話してもらいたいと思いました。

Q3 KOTELLOの良いところ

雪降っててよかったですね。廃校って聞いた時にポロポロのイメージだったんですが、「あれ?」場所違うんじゃないかっていうくらいきれいでした。あとは、「小学



校ってみんなの記憶にある」っていう発想がすごいなと思います。場の力を僕らが借りて、どんな議論になるのか、どんなコミュニケーションが起きるか(楽しみですね)。どういう議論なのか、どういうコミュニケーションが起きるか。関係性だけじゃなく、「どこで」ってことが良いですね。人間は五感が重要ですから。



Q4 KOTELLOの感想は?

どうやってコンテンツ力を高めるかっていうのが、KOTELLOの課題なのかな?すごくいいものを持っているので、どう火をつけていくのかっていうのがこの場所としての課題かなと思っています。パワー、場の力ってあるはずなので、それを活かしてほしいです。立山とか芦峯寺っていう歴史のパワーを使ってほしいです。ストーリーのある場ってすごく人を惹きつけるので。

カフェ&ゲストハウス

ロコモーションさん

Q1 KOTELLOの第一印象は?

元々おしゃれな創りの学校に、面白い家具やコロンセプトルームがあって不思議な空間。

Q2 KOTELLOとイベントしてみたいことか?

当店としては初めてのイベントだったので、オペレーションや提供する料理など様々な面で不安もありましたが、福岡さんや大野さんのサポートもあり滞りなく準備が進み、当日を迎えることができました。当日は想像以上に多くの方がお見えになり大変だった点もありましたが、それを上回る楽しさでした!ありがとうございました。そんな笑顔を見て、こちらまで嬉しくなりました。

Q3 今後KOTELLOとやってみたいこと

クリスマス会が本当に楽しかったので、季節ごとのイベントはぜひ今後もしていきたいです! KOTELLOさんの働く空間と、当店のゲストハウス、立山と言う最高の自然をうまく活用して、「思いっきり働いて遊んで休む!」プランなんかもできたらいいなと思っています。

Q4 KOTELLOを一言でいうこと?

初心にかえられる場所!

MIPOXとは?

MIPOXは、研磨フィルムから液体研磨剤(スラリー)、研磨装置に至るまで幅広い研磨材を提供している製造業です。そのサービスは研磨製品の提供のみならず、研磨品質の測定や受託研磨加工サービス、受託開発、研磨コンサルティングと、研磨に関するあらゆるニーズを網羅。「研磨」分野のグローバルニッチトップとして、お客様のさまざまな声にお応えするワンストップソリューション企業です。
<本店>〒409-1501 山梨県北杜市大泉町西井出8566(北杜事業所)
<本社>〒102-0083 東京都千代田区麹町5丁目3-23 日テレ四谷ビル 10階

ロコモーションとは?

立山駅前にあるカフェ&ゲストハウス。開放的なカフェスペースで、楽しいひとときをお過ごしいただけます。喫茶店メニューをオマージュしたフードはどれも絶品!また、ゲストハウスには“小さな大浴場”や“スック”など設備も充実。広々としたブースでゆっくりお休みいただけます。



連載 KOTELLO本だより



おすすめの二冊 /



今回の紹介者

白駒 妃登美さん

福沢諭吉に憧れ、慶應義塾大学に入学。卒業後、日本航空に勤務し、1992年には宮澤喜一首相訪欧特別便に乗務。2012年、株式会社ことほぎを設立し、日本の歴史は「志」のラリーであり、報恩感謝の歴史であることを伝える講演活動を本格的に開始する。これまで、日本史に関わる書籍を始め、多くの著書を発表。NHKをはじめとするTV、またラジオなどメディアにも多数出演する。



日本のこころの教育

著者:境野勝悟 出版社:致知出版社

私たち日本人はなぜ「こんにちは」「さようなら」と挨拶を交わすのでしょうか? 国歌「君が代」は愛の歌だった...!? 「お父さん」「お母さん」の語源は? これらの答えが、すべてこの本に書かれています。たった1回の講演で花巻東高校の校風を変えた、伝説の講演録! 「日本人必読の書」とも言うべき一冊です!



親子で読み継ぐ万葉集

著者:小柳左門、白駒妃登美 出版社:致知出版社

その歌が詠まれた時代背景や歌人の人生を紐解いていくと、万葉の歌の味わいは深まり、千二百年の時を超えて私たちに人生の大切なことを教えてくれます。そして勇気や希望の種を与えてくれます。いにしえの人々と心を通わす喜びを、この一冊に込めました。小柳氏の格調高い文章、竹中氏の素敵な挿絵と共に楽しんでください。